

## 瀬戸市コミュニティ交通市民ワークショップ（第1回）報告書

## 1 開催日時

平成 28 年 6 月 12 日(日) 午前 10 時～正午

## 2 開催場所

パルティセと 4 階 マルチメディアルーム

## 3 委員構成（職業・男女別）

職業		高校生	大学生	会社員・自営業	主婦・主夫	無職	計
性別	男性	0	3	1	0	5	9
	女性	3	0	1	8	1	13
合計		3	3	2	8	6	22

## 4 出席者

ワークショップ委員(20名)、株式会社早稲田大学アカデミックソリューション 井原雄人氏、NPO 法人ネットワーク・せとっこ（司会・進行）、瀬戸市都市整備部都市計画課

## 5 内容

(1) 開会あいさつ（開催趣旨、都市計画課長あいさつ）

(2) 公共交通の現状や先進事例などについての説明

ア 瀬戸市コミュニティ交通の現状（都市計画課）

- ・瀬戸市コミュニティバス、基幹バスの現状
- ・近隣市のコミュニティバス紹介
- ・全国のコミュニティ交通先進事例の紹介

イ 乗る人が本当に必要な地域公共交通をみんなで考える  
（株式会社 早稲田大学アカデミックソリューション 井原氏）

- ・全国的な公共交通利用者の推移、路線バスの現状について
- ・地域公共交通を検討するうえでのポイント
- ・先進事例：低速公共交通（電動バス）について

(3) 委員の自己紹介・瀬戸市コミュニティ交通に対して思うこと（意見交換）

【路線・停留所について】

- ・過疎地の運行もよいが、まちなかを高齢者が移動しやすいよう網の目のように走るルートがあるとよい。
- ・交通空白地をカバーすることも大切だが、まちなかと山間部で交通にメリハリをつけることも重要ではないか。



- ・路線をもう少し延伸して高蔵寺駅などに接続すると、もっと使いやすくなるのではないか。
- ・コミュニティバスは、行きたいところへのルートがない。「行きたい時に行きたい場所へ」を実現したい。
- ・学校の近くに停留所があるとよい。また、現在の時刻では学生の利用ができない。
- ・瀬戸市が「Uターンしたいまち」になるとよい。住んでいる人の目線で考えてはどうか。

#### 【車両・広報について】

- ・コミュニティバスについて知らない人が多い。もっと情報を広げるとよい。
- ・コミュニティバスの路線図がわかりにくい。もっと見る人にわかりやすくひきつけられるようなデザイン・工夫が必要。
- ・観光地へのバス時刻表などがあると観光に利用しやすい。
- ・コミュニティバスに親しみやすい愛称があるとよい。
- ・ジャンボタクシーは閉鎖的な印象があり、若者には利用しにくい。
- ・かわいいバスに乗りたい。
- ・大学の通学バスをコミュニティバスとしてもっと活用してはどうか。



#### 【その他】

- ・利用者負担のあり方を考え直すべき。

## 6 今後のスケジュール（予定）

### <第2回>

開催日時：7月31日（日） 午前10時～正午

開催場所：瀬戸蔵4階 会議室4・5

内 容：グループワーク

### <第3回>

開催日時：8月21日（日） 午前10時～正午

開催場所：パルティセと4階 マルチメディアルーム

内 容：グループワーク、アイデア発表

以上

# 瀬戸の公共交通考える

## 市民有志 バスめぐり意見交換



「ダイヤの改善を」バスに愛称付けて」など自分なりの意見を出し合う委員ら＝瀬戸市柴町のパーティセとで

瀬戸市のコミュニティークシヨップ」の第一回が十二日、同市柴町有志が考える「市民ワのパーティセとで開か

れた。市のコミュニティークシヨップ」の第一回が十二日、同市柴町有志が考える「市民ワのパーティセとで開か

交通が不便な地域の解消のため、同市は二〇〇六年から瀬戸市コミュニティバスの運行を開始。現在は八路線

がある。市都市計画課によると、一五年度の利用者は約八万七千人で年々減少している。一四年度のデータでは、一便あたりの平均利用者は三・二一人しかない。

「こうした現状を受け同課は、コミュニティバスのあり方や新たなコミュニティ交通について、市民から幅

広く意見を募るワークショップを開くことにした。ワークショップの委員には市民二十二人が公募などで選ばれた。高校生から八十代まで幅広い世代で、毎日のようにバスに乗る人や一度もバスを利用したことがない人もいる。初回は、同課職員が市の現状を説明し、まちづくりの専門家ほかの地方自治体の先進事例を紹介。委員たちはそれぞれ「通勤・通学時間帯も運行してほしい」「大学のスクールバスをもっと市民が利用しては」など多様な意見を出し合った。

瀬戸竊業高三年早川 怜那さん(セ)守山区は「バス沿線住民だけなく、市全体から幅広い意見を集め、どんなコミュニティ交通が求められているかを知りかけにしたい」と話した。

(堀井聡子)

「ダイヤの改善を」バスに愛称付けて」など自分なりの意見を出し合う委員ら＝瀬戸市柴町のパーティセとで

交通が不便な地域の解消のため、同市は二〇〇六年から瀬戸市コミュニティバスの運行を開始。現在は八路線

がある。市都市計画課によると、一五年度の利用者は約八万七千人で年々減少している。一四年度のデータでは、一便あたりの平均利用者は三・二一人しかない。

「こうした現状を受け同課は、コミュニティバスのあり方や新たなコミュニティ交通について、市民から幅

広く意見を募るワークショップを開くことにした。ワークショップの委員には市民二十二人が公募などで選ばれた。高校生から八十代まで幅広い世代で、毎日のようにバスに乗る人や一度もバスを利用したことがない人もいる。初回は、同課職員が市の現状を説明し、まちづくりの専門家ほかの地方自治体の先進事例を紹介。委員たちはそれぞれ「通勤・通学時間帯も運行してほしい」「大学のスクールバスをもっと市民が利用しては」など多様な意見を出し合った。

瀬戸竊業高三年早川 怜那さん(セ)守山区は「バス沿線住民だけなく、市全体から幅広い意見を集め、どんなコミュニティ交通が求められているかを知りかけにしたい」と話した。

(堀井聡子)